

きらり



Cherish the sound & the smell

地域連携情報誌

vol.38 2022年9月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の 健康を支え、頼られる病院であり続けます





平素より当院の運営に多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

耳鼻咽喉科では、新生児・小児から成人・高齢者まであらゆる年齢の方を対象に、中耳炎、難聴、めまい、顔面神経麻痺、鼻炎、副鼻腔炎、扁桃炎、声帯ポリープ、耳下腺・顎下腺・甲状腺の腫瘍など多岐にわたる分野を対象に、地域の基幹病院として、診断、検査及び入院・手術治療を中心に診療しています。予防接種の普及により小児の中耳炎は劇的に減少しています。しかし口蓋裂などの基礎疾患を持つこども達はチーム医療で形成外科、歯科とともに耳鼻科では鼓膜換気チューブ挿入術などを行っています。当院は新生児聴覚スクリーニング後の精密医療機関でもあり、県内の聴覚支援学校との連携により言語習得に向けて補聴器装用など聴覚管理を行っています。人工内耳は実施できる施設に制限があるため神戸などに紹介しています。成人症例も良性疾患はほぼ当院での治療は可能です。高齢化に伴い増加している嚥下障害については嚥下機能評価も行い、対象であれば言語聴覚士に依頼して嚥下訓練を行うことができます。認知症の進行予防に補聴器装用の効果も認められておりますので上手く活用していただけるよう助言することもあります。

鼻副鼻腔手術は内視鏡を用いて行いより安全な手術のためナビゲーションシステムも導入しています。 ほぼ全例全身麻酔で3泊4日の短期入院になっています。また耳下腺、顎下腺など頸部手術の際は神経 刺激装置を用いて顔面神経麻痺などの合併症を予防しています。

悪性疾患で専門的治療を要する場合は、兵庫県立がんセンター、神戸大学医学部附属病院に紹介していますが、ご希望があれば他の施設への紹介も行っています。

突発性難聴はEBMが示される治療法は確認されていませんが、ステロイドやビタミン剤、循環改善薬などを使用して対応しています。また顔面神経麻痺に対しては、外来、入院でのステロイドミニパルスに加えて、発症初期から自発運動を禁止してマッサージを主体としたリハビリテーションも積極的に行っており、病的共同運動などの合併症の軽減を認めています。誘発筋電図検査も実施して顔面神経減荷術の適応があれば神戸大学医学部附属病院に紹介しています。

地域医療連携の中で、病院としての機能を発揮できるよう救急も含めて入院を要する疾患の対応などできる限りの調整をしていきたいと思います。また、安定した患者さんについては地域の診療所の先生方との併診とさせていただくこともあるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

耳鼻咽喉科 医師





安井 理絵

■ 耳鼻咽喉科 主任科部長

耳鼻咽喉科一般、小児疾患

資格等

日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医・指導医、日本耳鼻咽喉科学会認定騒音性難聴担当医、日本耳 鼻咽喉科学会補聴器相談医、厚生労働省認定臨床研修指導医、医学博士





専門分野

耳鼻咽喉科一般

資格等

日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門 医・指導医、日本耳鼻咽喉科学会補 聴器相談医、厚生労働省認定臨床研 修指導医

神戸大学病院、兵庫県立がんセンター、沖縄県立八重 山病院、北播磨総合医療センターでの勤務を経て、3 年前より当院へ赴任してまいりました。これまでに培っ た経験を活かして耳鼻科疾患全般にわたり適切な診断、 治療をおこなってまいります。患者さんにはわかりやすい説明を行うことを心がけ、個々の背景、希望に応じた 最善の医療を提供できたらと思います。どうぞよろしく お願いいたします。



雅之

■ 耳鼻咽喉科 専攻医

専門分野

耳鼻咽喉科一般

資格等

初期研修医として加古川中央市民病院で2年間過ごし、その後耳鼻咽喉

高橋 推之 科専攻医として勤務先の病院を移動 しながら、2021年7月より再度加古川中央市民病院に 戻ってまいりました。加古川中央市民病院では、特にcommon diseaseが多く経験でき、外来や手術など御紹介いただいた豊富な症例から日々学ばせて頂いてお ります。研鑽を積みながら、加古川地域の患者様に習得した技術を還元していけるように今後とも励んで参ります。まだまだ若輩者ではありますが、今後とも何卒宜 しくお願いいたします。

【耳鼻咽喉科 外来担当表】

月		火		水		木		金	
午前	午後								
		高橋		高橋				高橋	
		安井		安井				安井	
大学		繁治		繁治		古川		繁	治

特集 Featured 耳鼻咽喉科

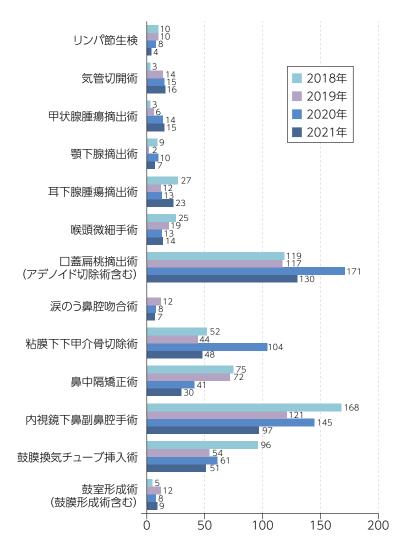


耳鼻咽喉科は常勤医3名で引き続き東播磨 地域の中核病院となるべく、入院、手術症例 を中心に充実した診療を目指していきたいと 思っています。

中耳炎、鼻炎、副鼻腔炎、扁桃炎などの炎症性疾患の急性期治療や鼓膜チューブ留置(2日)、中耳炎手術(4~5日)、内視鏡下鼻内副鼻腔手術(4~5日)、口蓋扁桃摘出術(8~9日)などを行っています。最近は副鼻腔手術後のパッキングも少なくして入院日数も短縮しています。また良性疾患の唾液腺、甲状腺手術も当院で対応可能です。

2021年 手術実績

451件







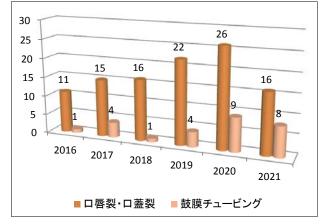




形成外科×歯科口腔外科×小児科×耳鼻咽喉科

口唇裂・口蓋裂治療は形成外科医、口腔外科医、言語聴覚士、耳鼻科医、矯正・小児歯科医、小児科医などのスタッフによるチーム医療を必要とする高度医療の一つであります。当院で口唇裂・口蓋裂治療チームを結成し、2014年から治療実績を重ねてまいりました。口蓋裂チームの中で耳鼻咽喉科では滲出性中耳炎による難聴の改善と言語獲得に関する役割があります。口唇口蓋裂には耳管機能不全を合併することが多く、滲出性中耳炎の子供さんがたくさんおられます。特に生後半年から1年の間の言語を習得していく時期に難聴があると言葉が出てこないなどの問題が起こってきます。形成外科で3~6か月頃に口唇閉鎖術が行われることが多く、滲出性中耳炎がある場合は、同時に鼓膜換気チューブを挿入し、聴力改善を得られるようにしています。チューブ留置が数年間必要になる症例が多いのですが、1歳半ごろの口蓋閉鎖術が終わると、滲出性中耳炎が改善する例もあります。また小学校に入ると自分で耳抜きをするなど、ある程度コントロールができてくることもあります。構音訓練は言語聴覚士の対応になりますが、聴力も含めて耳鼻咽喉科で息の長い治療が必要になる疾患ですので、地域の先生方との連携も含めてより良いQOLを目指していきたいと思います。





眼科×耳鼻咽喉科



当院では眼科と共同で、涙道閉塞症に対して涙嚢鼻腔吻合術を行っています。涙は瞼の涙腺で作られ、目の表面を潤した後、目頭にある涙点から鼻涙管を通って鼻腔に抜けて行きます。この涙の排水路のどこかが詰まる病気が涙道閉塞症です。

当院では鼻内から内視鏡を使って鼻の骨を切除して窓を作り、直接鼻腔に通じるバイパスを作成する内視鏡下涙嚢鼻腔吻合術を行っています。

涙道の手術では眼科と耳鼻科の両方の知識が必要となるため、眼科医師と共同し、 手術を行っています。

川井整形外科

診療科: 整形外科/リハビリテーション科/リウマチ科

令和4年1月に川井整形外科(高砂市神爪)を継承いたしました、川井俊介と申します。私は、市中病院で主に急性期患者の入院管理・手術・外来診療について研鑚を積み、その後は大学病院にて、骨軟骨の難病研究に従事してまいりました。これまでの経験を活かし、日々の診療にあたっております。

超高齢社会において、運動器の障害により健康寿命が損なわれるのが、約20%あります。運動器を健康に保って過ごすことが、生活の質の向上にとても重要なことであると感じます。

当院では、MRIを導入しており、病態の正確な把握・適切な治療を目指しています。特に高齢者の椎体圧迫骨折は

院長 川井 俊介 先生

受傷早期のレントゲンでは診断しにくいことが多く、MRIによる早期の診断・治療介入を心がけています。また、理学療法士による運動器リハビリを積極的に行っており、筋力強化・関節可動域の拡大を目指し、患者様が元気に過ごすお手伝いが出来るよう、努めております。

加古川中央市民病院の先生方には、保存的加療ではコントロールが困難な慢性疾患(腰・膝など)や、転位が大きく手術加療が必要な外傷疾患(骨折や靭帯損傷など)を中心にご紹介を受けてくださり、心より感謝申し上げます。手術後のリハビリテーション患者様の逆紹介もしてくださっており、さらに連携して患者様のADL向上に努めていければ幸いに思います。

周辺地域の整形外科かかりつけ医として、地域医療へ貢献できるよう精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。





所在地:高砂市神爪2-2-7

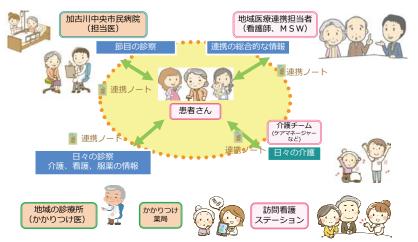
駐車場台数:21台

TEL.079-432-7757

診療時間	月	火	水	木	金	土	B
午前 8:30~12:00	0	0	0	0	0	0	_
午後 16:00~19:00	0	0	0	_	0	_	_

※午後の診察の受付は18:45までとなります。
※休診日は、木曜(午後)/土曜(午後)/日曜日/祝日になります。

■がん地域連携パスにぜひご参加ください。



がん地域連携パス

がん地域連携パスを活用することで、地域の開業医の先生方と加古川中央市民病院が協力して情報交換を行い、安心で質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとってご自身の治療計画や経過の把握、かかりつけ医の手厚い診療による不安解消にもつながります。

当院では「がん診療における地域連携パス」兵庫県統一版を一部カスタマイズし、術後比較的病状が安定する患者さんに、地域連携パスを用いた経過観察をお願いしています。これらの趣旨にご賛同いただき、がん地域連携パスの参加をご希望される方は地域連携室までご連絡ください。



がん相談(がんサロン)



当院のがん相談支援センターは、2022年1月に「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」に認定され、 認定がん専門相談員2名を配置し、日々、支援サービスの質の維持・向上に努めています。

今年度は、患者さんやそのご家族同士の交流の場として「がんサロン<笑てん会>」を感染対策に留意しながら 再開いたしました。コロナ禍においても、安心して患者さんやそのご家族同士が交流できるよりよい方法を検討し ながら、開催しております。

私達は「信頼性の高い」「安全な」情報のもと、当院に受診歴がない患者さん・ご家族の方も含め、気軽に活用い ただける地域の「がん相談支援室」として支援してまいります。ぜひ、相談できる窓口としてご紹介ください。





増築工事が始まりました。



当院は2024年3月頃の完成を目指し、病院棟を増築 します。免震構造の鉄筋コンクリート造りで、延べ約 6.500平方メートルの7階建ての建物が、現在の病院 棟の西隣に建ちます。

外来待合スペースを広げ、血管内のエックス線撮影 画像を確かめながら手術できる「ハイブリッド手術室」 も増設する予定です。

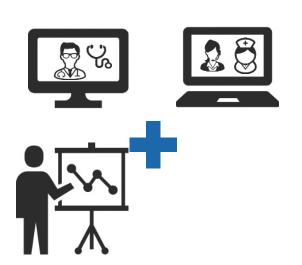


*上の画像は増築後のイメージ



連携室ニュース

11月17日(木) 地域連携セミナーを開催します。



これまで毎年5月に開催しておりました地域連携会議は新型コロナウイルス感染症の影響により、やむなく延期していました。まだまだ感染症の終息は見えない中ですが、地域の医療機関、施設の方々との連携が途切れることがないよう、当院の取り組みを紹介する場として、11月にハイブリッド形式でのセミナーを開催することとなりました。以前の地域連携会議にあった意見交換会は開催できませんが、多数のご参加をお待ちしております。詳細については別途ご連絡します。

患者さん向けFreeWi-Fiを始めました。

外来・入院患者さんやそのご家族の療養環境の向上に向けた取り組みを行うため、患者さん向けFree Wi-Fiの提供を開始しました。 サービス提供箇所、時間の設定は病棟エリア:午前7時~午後9時の間(※4階手術待合、6階人間ドック、リハビリテーション室を含む)、外来エリア:24時間(常時)(※1階講堂光ホールを含む)です。

利用者認証は利用者情報の適切な確認を行うため、メール認証を実施しています。また青少年による利用(家族や子供の利用)を想定し青少年有害情報(犯罪、ギャンブル等)の閲覧を制限するフィルタリングも実施しています。





患者支援センター地域連携室

予約専用 TEL.079-451-8651/FAX.079-451-8653 その他 TEL.079-451-8652/FAX.079-451-8654

https://www.kakohp.jp/medical_person/

